

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

宮崎県 小林市

自治体名：宮崎県小林市

担当課名：教育部学校教育課

電話番号：0984-23-0424

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	562.95 km ²
人口	40,906 人 (R7.2.1現在)
公立中学校数	9 校
公立中学校生徒数	1,122 人
部活動数	50 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

本市の中学校部活動の現状は、生徒数は、令和元年度から令和6年度の直近6年間で比較して52人減少し、部活動数については、文化部は変わらないものの、運動部は6つの部活動が減少している。生徒数の減少でチームとして編成しにくい団体競技の部活動が統廃合され減少傾向にある。

また、学校を取り巻く環境が、複雑化、多様化する現在、学校教育の一層の改善・充実が求められ、教職員が担う業務は質・量ともに増加しており、小林市教育委員会が令和元年度に教職員の働き方改革プランを作成し、地域、保護者、関係機関と連携を深めながら、学校と教育

委員会が一体となって教職員の働き方改革に取り組んでいる。

中学校部活動の地域移行においては、主体となる生徒やその保護者、そして指導者の受け皿となる地域の理解や協力が不可欠であるため、事業の趣旨・目的、具体的な方策等を周知することが必要である。

しかし、市内全体で地域クラブ活動を実施する場合の地域指導者の確保、地域指導者と部活動や運営団体と学校をマッチングする仕組み、指導者への謝礼金、参加者の保険料といった経費負担、学校以外における練習時の移動手段の確保等の課題整理が必要である。



【小林市の人口推移】

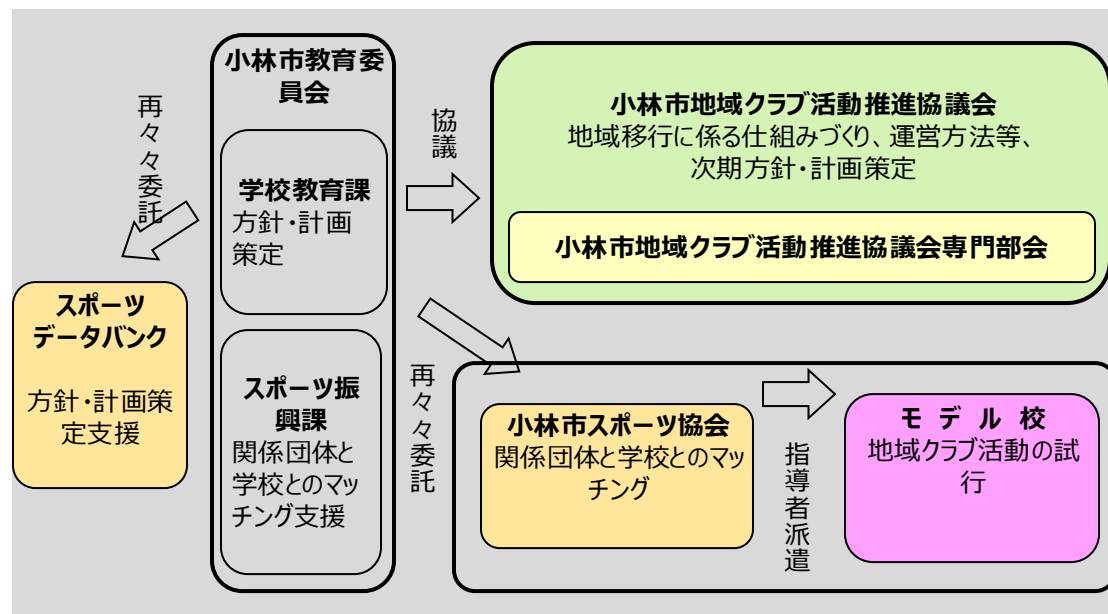
◎小林市の人口推移

本市の人口は、昭和30(1955)年の6.4万人をピークに、令和6(2024)年の4.1万人、令和22(2040)年には3.0万人減の3.4万人となることが見込まれている。今後も少子化による大きく、生徒数の減少が予想されている。部活動については、平均部活動加入率は66.3%(令和6年度)となっている。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会（学校教育課）

小林市地域クラブ活動推進協議会の事務局として全体の運営。

◎教育委員会（スポーツ振興課）

小林市地域クラブ活動推進協議会専門部会の運動部において、専門部会事務局である小林市スポーツ協会を支援。

年間の事業スケジュール

令和6年4月	関係団体事前協議・調整
令和6年5月	関係団体事前協議・調整
令和6年6月	第1回地域クラブ活動推進協議会
令和6年7月	第1回地域クラブ活動推進協議会 専門部会 地域クラブ活動開始
令和6年8月	アンケート実施 （生徒・保護者・顧問）
令和6年9月	1年目モデル校協議・調整
令和6年10月	第2回地域クラブ活動推進協議会 第2回地域クラブ活動推進協議会 専門部会
令和6年11月	1年目校活動開始
令和7年2月	第3回地域クラブ活動推進協議会 活動内容確認、精算業務 報告書提出

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	8 校	実施した地域クラブ総数	25クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		25 クラブ（25 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	37人	全体の運営スタッフ数	1 人

②各クラブに関すること(一部抜粋)

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
全てのクラブ	小林市スポーツ協会	野球、バレー、バスケットボール、陸上、ハンドボール、サッカー	年15回程度	平日及び休日	1～3年生	7月～1月	各中学校	37人	1 人	なし	中体連：部活動

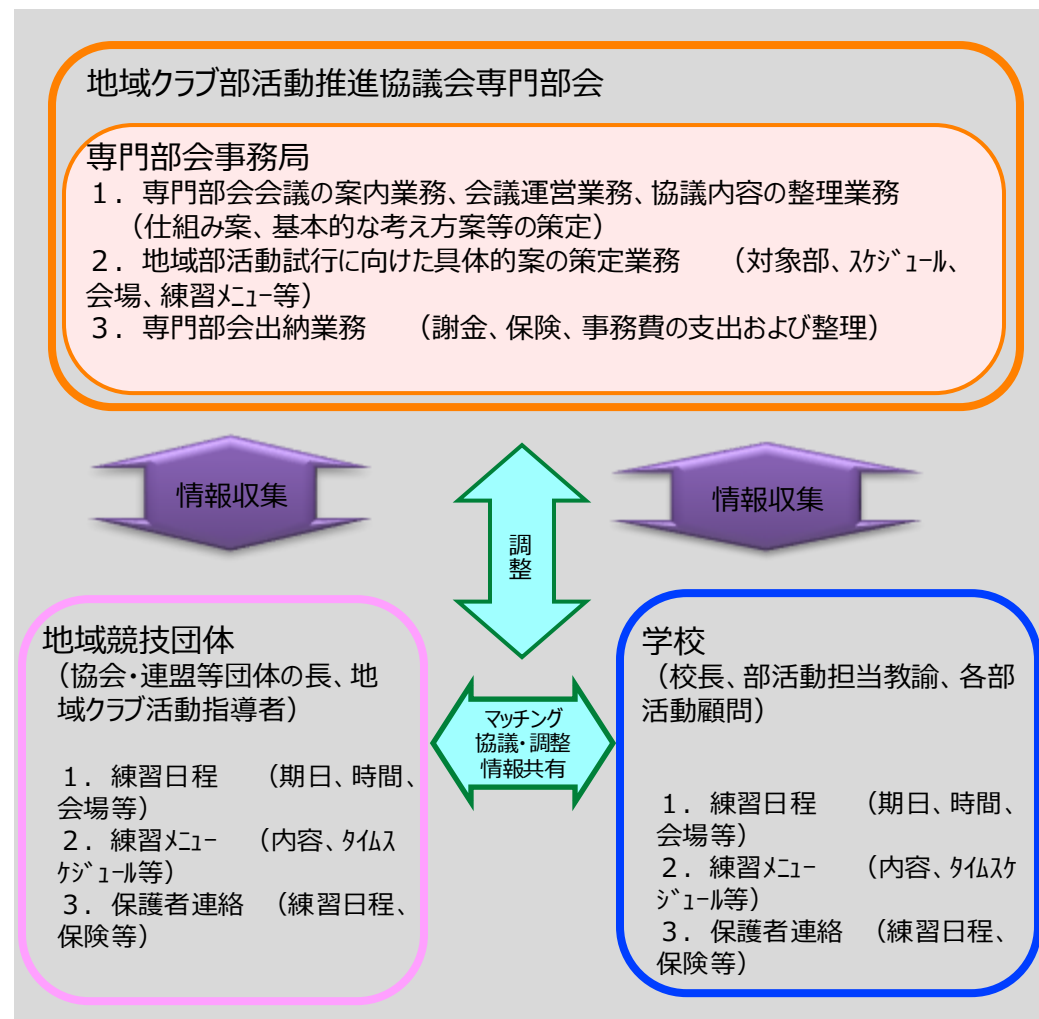
2.実証内容と成果

主な取組例

●三松中学校 地域クラブ活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上、男子バレーボール、男子ソフトテニス、ハンドボール、サッカー、軟式野球、女子ソフトテニス
運営団体名	小林市スポーツ協会
期間と日数	期間：7月～1月 日数：上記のうち15日程度
指導者の主な属性	団体職員、公務員等
活動場所	小林市総合運動公園、各学校
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

令和3年度から取り組んでいる地域クラブ活動推進協議会を中心に、地域移行の仕組みの構築やこれまでの試行における成果や課題等を協議した。

取組の成果

地域クラブ活動推進協議会において、地域クラブ活動試行における基本的な考え方や、モデル校を選定し、効率的・効果的な地域クラブ活動試行が実施できるよう協議・検討を行った。

また、本市における地域クラブ活動の方針を共有するため、右記の図を基に目指す姿や方向性、地域クラブ活動のイメージ図を作成した。

コーディネーターの業務内容

- ・本市の実証検証拠点地域の実践を支援
- ・市内外における部活動の地域移行に向けた情報を収集
- ・市内における部活動の地域移行に向けた地域団体と学校のマッチングを支援
- ・市内における部活動の地域移行に向けた仕組み構築を支援
- ・令和6年度小林市地域クラブ活動推進協議会に参加

小林市地域クラブ活動方針【概要】

小林市地域クラブ活動の方針(概要)

1 方針策定の背景

- ①少子化に伴い部活動維持が困難
- ②地域の指導者不足
- ③教職員の働き方改革により教育の質の向上

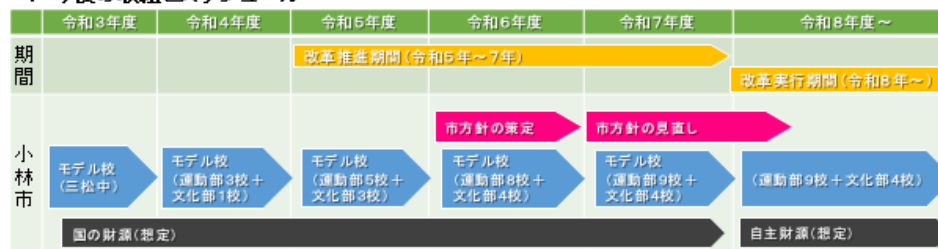
2 目指す姿

小林市が目指す学校部活動の地域移行は、「**地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる。**」という認識の下で、生徒の望ましい成長を保障できるように、学校部活動に変わり、地域において持続可能な地域クラブ活動の環境を整備していく。

3 方向性

- ①この活動は、実施可能な部活動から段階的に地域クラブ活動へと移行(休日・平日)
- ②拠点校部活動を継続して取り組み、生徒の望む活動の機会を創出

4 今後の取組とスケジュール



今後の課題と対応方針

これまでの地域クラブ活動試行における課題については、引き続き協議・検討していく必要がある。令和8年度以降の活動方針については、国・県の動向を注視して方針の見直しを図っていきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

参加する生徒が戸惑わないような活動ができる環境づくりを目的に、専門部会を中心とした会議・研修会を開催した。

取組の成果

会議には、中学校部活動の顧問と地域指導者が出席し、地域クラブ活動の趣旨・目的、活動における基本的な考え方等を説明し、事業の理解を深めた。また、現状の部活動における練習方針や課題を各部・競技毎に協議する場を設定したことで、顧問・指導者間の連携を深めることができた。

今後の課題と対応方針

地域指導者において、競技における知識や経験は豊富であるが、教職員のような指導・教育するスキルを研修等で培っていく必要があるケースが見られた。そのスキルとしては、生徒とのコミュニケーションの取り方やその距離感であったり、単に競技力の向上ということだけでなく、クラブ活動をととして人間関係の構築や社会性を学び生徒の成長を促すことも重要である。今後、研修の内容等を更に検討していく必要がある。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

地域クラブ活動の指導者研修については、令和6年度中に2回実施した。

1回目は、令和6年7月29日に開催し、2回目については、令和6年10月23日に開催した。

研修時間については、それぞれ1時間程度行った。

研修内容やそのテーマとしては、市教育委員会と市スポーツ協会で構成される事務局から小林市の地域クラブ活動運営の基本的な考え方や、スケジュール等を説明を行った。

また、研修会の中で地域クラブ活動中にケガ等があった場合の対処法についても学びを深めた。

その他、研修会では、部活動顧問と地域指導員が実際に顔を合わせて活動の方向性や活動内容について協議を行うことで、より連携を深めることができ、スムーズに活動を実施することに繋がった。

受講者の声

研修会を受講した方の意見等については下記のことがあげられた。

・地域クラブ活動と部活動の違いという点など、基本的な部分から知ることができたので良かった。

・部顧問等と直接顔を合わせて打合せができたので、安心して地域クラブ活動に取り組むことができる。

・部活動と地域クラブ活動の際の練習内容等に極端な差がでないように担当者間で調整することができたので非常に良かった。

今後の課題と対応方針

指導者の質と量を確保し、部活動の地域移行をスムーズに進めていくにうえて、今後も指導者研修を定期的実施していく必要がある。今後の研修内容については、教育委員会や指導者、顧問だけではなく、例えば外部から講師を派遣してもらう等、怪我が起きたときの対応等や、実技指導等も行なうなど研修内容の充実を図ることを検討していく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

小林市地域クラブ活動推進協議会や小林市地域クラブ活動推進協議会専門部会を中心に、関係団体との連携強化を図る。

取組の成果

地域指導者と顧問の円滑な連携を図る目的で設置した専門部会の事務局を小林市スポーツ協会に委託することで、本市で活動する地域の各競技団体から地域指導者の派遣を効率的に進めることができた。

今後の課題と対応方針

地域クラブ活動試行については、地域指導者の派遣や練習日程・会場の設定等、円滑な取組が可能となったが、中学校部活動の全てをクラブ活動にする場合に、指導者数が足りていない現状があるため、スポーツ協会において人材バンクを設置し、指導者を確保する必要がある。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

地域クラブ活動においては、指導者間による調整により、学校内での男女間の合同練習や学校間でのモデル校同士の合同練習、小・中・高異校種合同の練習が行われた。

取組の成果

取組状況

- ・バレーボール（三松中学校と細野中学校の合同練習の実施）
- ・野球（細野中学校とスポーツ少年団の合同練習の実施）
- ・ソフトテニス部（三松中学校と細野中学校の合同練習）
- ・サッカー部（三松中学校と小林中学校の合同練習）

今後の課題と対応方針

指導者の確保が難しい中で、複数のクラブ活動を少人数の指導者で活動でき、さらに指導者が複数集まることで、より専門的な指導が可能になる合同練習は非常に有意義であるとする。

今後、さらに地域クラブ活動を充実していくためには、指導者の確保と合同練習をさらに広域的に取り組んでいく必要がある。



2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実

取組事項

地域クラブ活動移行のさらなる推進や生徒や保護者へ理解促進を図るため、生徒及び保護者、部活動顧問に対してアンケート調査を行った。

取組の成果

- ・実施期間 令和6年8月22日から1週間程度
- ・対象者 小林市の中学校生徒（部活動加入者）、保護者、中学校教職員
- ・回答数 生徒198名、保護者192名、教職員28名

※アンケート結果についてはP14からP16に記載

今後の課題と対応方針

アンケートの生徒のたちの声を聞くと、入部して良かったとの声が多く、その理由として「好きな活動ができています」、「友好関係が広がる」や「学校の先生との交流ができています」との声があり、部活動を通して先生とのコミュニケーションを図っている生徒も多く、部活動の意義についても確認することができた。保護者の回答を見ると、一定数は地域クラブ活動に理解があるが、受益者負担については、「負担すべきでない」との声もあるため、今後も活動の周知と理解促進に努める必要がある。教職員の結果をみると、部活動顧問に負担を感じている割合が83%であり、地域クラブ活動を実施し、教職員の負担軽減を図っていくことの必要性を改めて感じたので、今後もアンケート調査等を行い、小林市の目指す地域クラブ活動に繋げていきたい。



【アンケート 回答抜粋】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項

地域クラブ活動を今後、自主財源で運営していくことを検討するために、生徒の保護者に対してアンケートを実施した。

取組の成果

保護者アンケートの結果（192名回答）

質問：地域クラブ活動を実施する場合、生徒や指導者の傷害保険、施設使用料等の経費負担が発生すると想定しておりますが、経費負担についてどう思いますか。

- ①保護者が負担すべきである 164名（85%）
- ②保護者が負担すべきでない 28名（15%）

今後の課題と対応方針

保護者アンケートの結果をみると、一定数については受益者負担に理解を示している。負担すべきでないと回答した保護者の意見としては、「部活動とは別にかかるとなると負担は大きい」、「気軽に入部できなくなるのではないか」、「負担が増えることで部員が減るのは活動の趣旨と異なるのは」などの意見がありました。

今後の課題としては、持続可能な地域クラブ活動にしていくために、ふるさと納税や寄付金、受益者負担など自主財源の運営の在り方について検討が必要になる。

R6学校部活動及び地域クラブ活動に関する意向調査

【保護者】

4. 地域クラブ活動を実施する場合、生徒や指導者の傷害保険、施設使用料等の経費負担が発生すると想定しておりますが、経費負担についてどう思いますか。



5. 上記「②保護者は負担すべきでない」を選択した理由があれば入力してください。

- ・あくまでも学校部活動として行う形で発足するのであれば保護者ではなく協会等が負担すべきではないかと思う。だけど、部活動とはまた違う形のクラブ活動であれば保護者負担になると思う。
- ・あくまでも学校の活動として最優先にすべきは、学業であり部活動ではない。顧問の先生（学校教職員）で収まる範囲での活動が望ましい。また、物価高騰等により生活も厳しい中で更に負担が増えるのは日常生活に支障をきたす。
- ・怪我などはその家計次第で負担すればいいが、施設料などは部費からでいいと思う。
- ・若くは保護者負担でもいいが、補助があってもいいと思う。
- ・義務教育期間での日常活動費用支出費はこれ以上負担を増やすべきではないと思うので。
- ・逆に言えば保護者が負担しなければならぬのが現実らしい。
- ・現在負担してもらっているもので、今の学校の先生に満足しているので、地域の指導者からしてもらうには、負担出来ればと思うが、子供達との接し方や指導のやり方などに納得いかない部分があったりしたら、負担したくないと思う気持ちが出てきたりしそう。
- ・子供に関するものは負担するべきだと思いますが、指導者の傷害保険保護者が負担する必要ありますか？
- ・市からの提議による指導にあたるので、部活動以外に負担金が増えるのは何かなものかと。
- ・支払える家計はいいが、低所得者の対応が心配である。
- ・出来ないのであれば、そもそも地域クラブするまではないソフト、ハード面を整えて地域クラブ活動をしていただきたい。
- ・傷害保険はいいと思うが、施設使用料は、地域クラブ活動になることで発生するのであれば、いつもしている学校等お金のからない施設であればいいと思う。
- ・少ない部員の部活動は保護者だけでまかなうとすると負担が増してしまうから。
- ・生徒の保険や施設の使用料はわかる。指導者は要検討かなと。
- ・導入するのであればそこまで考えておく必要があると思う。
- ・負担が増えれば部員は増えない。
- ・負担が大きくなるため。
- ・部活によって保護者の負担が大きく、最近はお金がかかるからその部活は止めてね。と親から子どもにお願いする事もあるようです。子どもが好きな部活に入れ無い現状です。
- ・部費から負担してほしい。
- ・部費とは別にかかるとなると保護者負担が増え、気軽に部活に入れなくなるのかもしれない。
- ・部費等でまかなう。
- ・物価高騰し子育て費が上がっているため、部活などしなくてもいいものであれば、お金がかかramのを減らしたい。
- ・保険等は負担すべきだが、施設利用等は保護者負担はおかしい。毎月の部費や市から出して欲しい。
- ・毎月の部費でまかなえるのであれば、そこから、負担すればいいのではと、思います。

【アンケート 回答抜粋】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

授業や学校行事等以外で使用しない時間は積極的に開放できる仕組み構築を図り、施設の有効活用した。

取組の成果

市の公共施設にも限りがあるが、学校の施設を活用することで、所属する生徒は自身で練習会場に移動できるため、保護者送迎の必要が無かった。また、他の市民の活用が無いため、練習計画の日程調整が柔軟・効率よくできるため、生徒・保護者や地域指導者にとって、負担軽減につながった。

今後の課題と対応方針

体育館で活動する競技における鍵管理の方法等について、休日でも教職員が施錠・解錠しなくて良い環境整備が必要である。



総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度においては、モデル校をさらに拡大し、市内8校で地域クラブ活動を実施した。活動回数については、前年度までの実績をもとに7月から1月までに15回程度と設定した。指導については、専門部会を実施し、地域クラブ活動の基本的な考え方や部活動顧問との打合せを通して「部の方針や目標」などを共通理解を図ることができた。

また、指導者間による調整により、学校内での男女間の合同練習や学校間でのモデル校同士の合同練習、小・中・高異校種合同の練習を行い、効率的かつ専門的な指導を実施することができた。

今後の地域クラブ活動を実施する上で、不可欠である生徒や保護者及び教職員の声を確認するためアンケートを実施した。回答をみると、部活動に対する生徒の考えや、受益者負担の保護者の意見、教職員の地域クラブ活動の必要性等について確認することができた。

令和3年度から地域クラブ活動を実施し、これまでの実績や指導者の状況等を踏まえて、「小林市地域クラブ活動の在り方に関する方針」に策定した。

●成果の評価

指導者の指導回数については、これまでの実績をもとに15回程度と設定したが、地域指導者と部活動顧問の調整等により、設定より多く指導できた活動もあれば、回数が少なかった活動もあり、ばらつきがあったことが次年度以降の課題である。

指導者の確保が難しい中で、合同練習を実施し、複数のクラブ活動を少人数で指導でき、さらに指導者が複数集まることで、より専門的な指導が可能になった。

地域クラブ活動推進協議会を年3回実施し、小林市の地域クラブ活動の計画や今後の方向性について協議し、「地域の子どもたちは、学校を含めた地域で育てる。」という意識の下で、「小林市地域クラブ活動の在り方に関する方針」を策定することができた。

●今後に向けて

小林市地域クラブ活動の在り方に関する方針を策定し、今後の小林市が目指す方向性について示すことができたので、この意識の下に、市と地域、そして学校が連携しながら、生徒の望ましい活動環境の整備を図っていきたい。

なお、この方針については改革推進期間（令和7年度末）までの方針であり、今後国や県の動向に注視しながら、方針を見直す必要があるため、地域クラブ活動推進協議会にて改めて協議していきたい。また、持続可能な地域クラブ活動にしていくために、ふるさと納税や寄付金、受益者負担など自主財源の運営の在り方や指導者確保のための人材バンクについて検討していく。

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

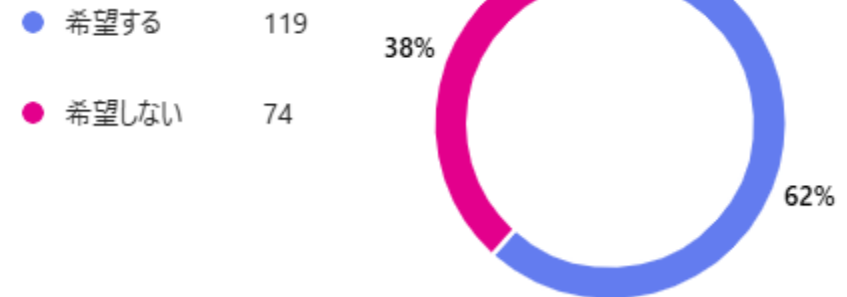
●アンケート結果

【生徒】

Q1.学校部活動に入部して良かったと感じることはどのようなことですか。



Q2.部活動の指導において、地域の経験者による専門的な指導を希望しますか。



生徒の声

・校内の先生だけの指導で充分ですが、先生1人で指導されているので大変そうと思いました。

・先生とやれるのが楽しいです。

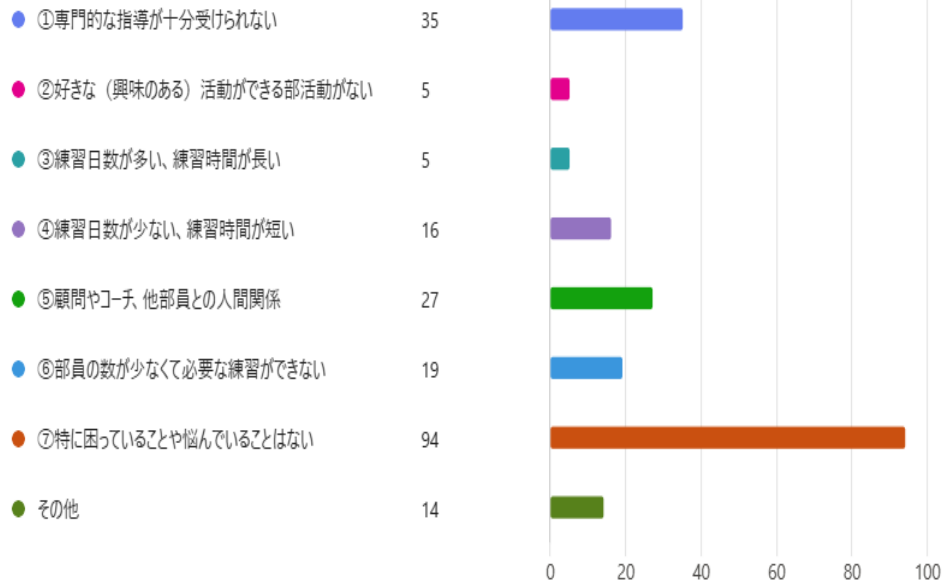
2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

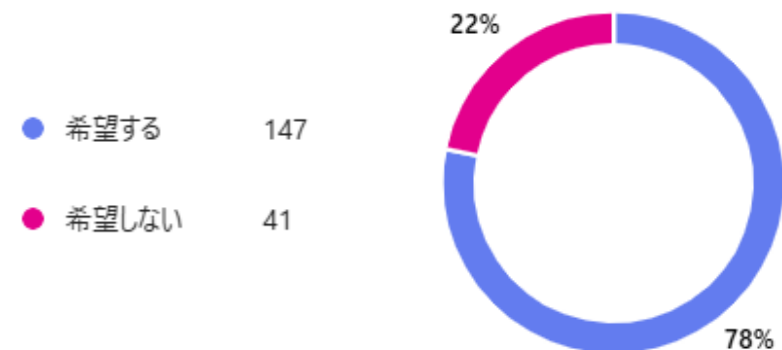
● アンケート結果

【保護者】

Q1.お子様が学校部活動で困っていることや悩んでいることがあれば教えて下さい。



Q2.部活動の指導において、地域の経験者による専門的な指導を希望しますか。



保護者の声

- ・専門的な指導者がいない。
- ・親として練習試合などの場所が遠くて大変である。
- ・土日の練習試合が多い。
- ・試合が多くて、家族の時間が取れない。
- ・指導経験の無い顧問と、外部コーチの指導に齟齬がある。

2.実証内容と成果②

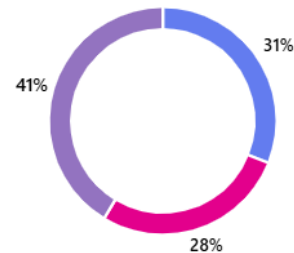
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

【教職員】

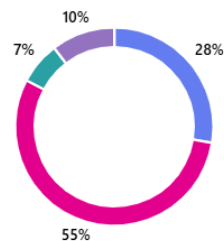
Q1.顧問を務める部活動の経験や専門性がありますか。

● ①自分自身の活動経験があり、技術指導に自信がある	9
● ②自分自身の活動経験はあるが、技術指導に自信がない	8
● ③自分自身の活動経験はないが、これまでの顧問経験等により技術指導には自信がある	0
● ④自分自身の活動経験がないため、技術指導に自信がない	12



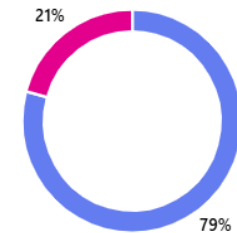
Q2.学校部活動は負担に感じますか。

● ①負担	8
● ②どちらかといえば負担	16
● ③どちらかといえば負担ではない	2
● ④負担ではない	3



Q3.部活動の指導において、地域の経験者による専門的な指導を希望しますか。

● 希望する	23
● 希望しない	6



Q4.地域部活動実施の場合、一般の指導者としての参加を希望しますか。

● 希望する	14
● 希望しない	15



教職員の声

- ・専門的な指導はできない。部活動の顧問は負担が大きい。
- ・休日は、家庭のことに時間を充てたい。自分の子供との時間を確保したい。土日は自分のことに時間を使いたい。
- ・経験のない部活動指導において、見通しをもった効率的、合理的な指導、部活動運営は困難である。

2.実証内容と成果③

参考資料（活動写真）



【バレーボール部 他中学校との合同練習】



【野球部 スポーツ少年団と合同練習】



【サッカー部 スポーツ少年団と合同練習】



【ソフトテニス部 男女部の合同練習】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

小林市地域クラブ活動方針【概要】

小林市地域クラブ活動の方針（概要）

1 方針策定の背景

- ①少子化に伴い部活動維持が困難
- ②地域の指導者不足
- ③教職員の働き方改革により教育の質の向上

2 目指す姿

小林市が目指す学校部活動の地域移行は、「**地域の子ともたちは、学校を含めた地域で育てる。**」という認識の下で、生徒の望ましい成長を保障できるように、学校部活動に変わり、地域において持続可能な地域クラブ活動の環境を整備していく。

3 方向性

- ①この活動は、実施可能な部活動から段階的に地域クラブ活動へと移行（休日・平日）
- ②拠点校部活動を継続して取り組み、生徒の望む活動の機会を創出

4 今後の取組とスケジュール

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度～
期間			改革推進期間（令和5年～7年）			改革実行期間（令和8年～）
小林市	モデル校（三松中）	モデル校（運動部3校＋文化部1校）	モデル校（運動部5校＋文化部3校）	モデル校（運動部8校＋文化部4校）	モデル校（運動部9校＋文化部4校）	（運動部9校＋文化部4校）
	国の財源（想定）					自主財源（想定）

